

2026年3月8日掲載 山形新聞

女性が少ない物流業界において、第一貨物（山形市）山形支店のドライバー太田利奈さん（27）＝山形市＝は、支店に2人いる女性ドライバーの1人。「女性で不利と思ったことはないし、甘えもない。できる仕事は何でもやってみたい」と積極的に業務に取り組み。（大滝玲）

国際女性デー

特定の顧客の荷物を運ぶ区域事業を担当し、出勤時間は午前3時～同10時台とその日の荷物や配送先によって異なる。未明の出勤でも「いろんな仕事ができるから楽しい」とさりと話す。4トトラックに乗り込み、1日の移動距離は300キロほど。庄内との往復も頻繁にあるという。

「車の運転が好き」で、同社に2024年10月、正社員として入社した。同支店のドライバー110人の中で女性は太田さんを含め

第一貨物(山形)ドライバー 太田さん

不利じゃない、積極果敢

先輩助言 社内制度支えに

2人。「配先では、しっかりあいつすることを心がけている」といい、顔を覚えてもらいスムーズな業務につなげる。

太田さんが心強い社内制度として挙げるのが、入社後1年間、特定の先輩社員が指導、相談役となるメンター制度だ。先輩が仕事に関する助言をくれたり、職場になじんでいるか声をかけてくれたりする。「ちょっとしたことを相談できる人がいるのは安心感がある

多様な人材の確保に向けて、第一貨物が女性ドライバー増加への対応策を講じたのは2020年だった。女性用トイレの改修や増設、休憩室の確保などハード面から取り組んだ。さ

らに、男女間の格差是正を目的に女性を積極的に採用する「ポジティブアクション」の求人を出したり、女性の声を聞く座談会を開催したりした。

トイレ改修 座談会開催 人材確保策さまざま

20年3月に20人だった女性ドライバーは、23年3月に69人となった。増減はあるが、現在まで70人程度で推移している。増えているものの、同社の全ドライバーは約2800人で、女性の割合は3%弱にとどまる。

展開している。「今日も無事に帰ってることができた」と日々思っている」と基本を忘れない一方、入社してから大型の免許を取得した。「仕事の幅を広げたい」と意欲は尽きない。



「できる仕事は何でもやりたい」と話す太田利奈さん＝山形市

仕分け業務や事務職の女性もおり、活躍の場は多様だ。仁科秀樹常務人事部長は「女性も活躍できる業種であることを、業界全体でアピールしていく必要がある」としている。